

## 平成 30 年度 第 2 回とよた森づくり委員会

### 会議録

日 時：平成 31 年 3 月 11 日（火）13：30～16：30

場 所：（株）西垣林業豊田工場

出席者：別紙参照

資 料：別紙参照

※以下、敬省略

#### 1 開会

●森林課長 古澤

- ・平成 30 年度第 2 回とよた森づくり委員会を開催する。
- ・始める前に、3 月 11 日ということで、東日本大震災の黙とうをさせていただきたい。  
（黙とう）

※とよた森づくり委員会会長より挨拶

●とよた森づくり委員会 会長 岡本

- ・本日は、本格稼働した製材工場の見学をする。また、今年度最後となる森づくり委員会をよろしく願います。

※豊田市より挨拶

●産業部長 前田

- ・第 2 回森づくり委員会にお越しいただきお礼を申し上げます。先ほど黙とうしたが、8 年前に震災が起きた。当時は、震災があれほどだと思わず、次の日の記念植樹が予定通り行われた。そのような中、今年度から新・森づくり構想と第 3 次基本計画が開始され、製材工場が稼働した。先月はシンポジウムも開かれ、新たに動き出している。  
また、豊田市でも豚コレラの問題が発生し、これから市の対策会議があるためこれで失礼するが、今年最後の森づくり委員会をよろしく願いたい。

#### 2 とよた森づくり委員会委員委嘱及び副会長の選出等

●森林課長 古澤

- ・委員会前半は、西垣林業豊田工場の説明をいただきたい。それでは藤本様よりご説明をいただきたい。よろしく願いたい。

●西垣林業 豊田工場 工場長補佐 藤本

～西垣林業説明～

### 3 議事

#### ●森林課長 古澤

- ・それでは、次第に沿って議事に進みたい。ここからは、岡本会長に進行をお願いする。

#### ●岡本会長

- ・それでは、議事（1）子育て支援センター「あいあい」のリニューアルについて事務局よりお願いしたい。

#### （1）子育て支援センター「あいあい」リニューアルについて

※森林課鈴木（祥）より、資料1について説明

#### <質疑応答>

#### ●澤田委員

- ・親子がいつでも遊べる場所で、市民にとって木に対する刺激があってよい。木製のおもちゃが東京おもちゃ美術館に依頼したが、豊田市にそのような業者はないのか。

#### ●森林課長 古澤

- ・豊田市産材を扱っている業者はない。市産材の調達が可能だが、特注になる。

#### ●澤田委員

- ・できれば、市の業者で作れるとよいと思う。

#### ●森林課長 古澤

- ・小物は難しいが、大きなベンチなどは森林組合が作っている。

#### ●蔵治委員

- ・東京おもちゃ美術館から「あいあい」へ納品された木材の国材と外材の割合は？

#### ●森林課 鈴木（祥）

- ・ほぼ国材だが、4点が外材。

#### （2）新・豊田市100年の森づくり構想策定記念シンポジウムについて

※森林課中島より、資料2について説明

#### <質疑応答>

#### ●岡本会長

- ・今回のシンポジウムの内容は構想リニューアルを検討している時に聞いたかった。

#### ●鈴木（禎）委員

- ・質疑応答の時間があればもっとよかったと思う。

### 4. その他

#### ●鈴木（政）委員

- ・県森連を通じて、私も西垣林業に材を納めている。現在、木を伐るときは10センチほどの

余尺をつけることになっており、その材を県森連が選別し、西垣林業へ運ぶことになっている。周りの目が厳しくなっただけで、何も価格に反映されていないように感じる。

●山本委員

- ・今の鈴木（政）委員の「西垣林業ができてコストが下がっていない」という話題だが、西垣林業ができることで流通のコストが下がり、森林所有者の木材収入は増えるとこれまで説明されてきたが、実際どうなのか。
- ・三ツ足で 70 ha の開発がされて驚いた。新・森づくり構想の協議で皆伐の面積が 3 ha などの議論していたこともあるので、このような案件は森づくり委員会でも議論すべきではないのか。この案件についてどのような経過があったのか知りたい。
- ・とよた森林学校の今後について森づくり委員会で議論すべきだと思う。

●森林課 鈴木（春）

- ・製材工場のメリットは最新の数値は把握していないが、以前の森づくり委員会では、オブザーバーでもある森林組合の青山専務から稼働前の試算について報告があった。1 番のメリットは輸送費などの流通経費の削減。当時の試算では、2,000 円/m<sup>3</sup>程度の削減になると説明を受けた記憶がある。正確な稼働後の数値については、今後報告したいと思う。

●森林課 深見

- ・製材工場稼働してから県森連が取りまとめている。材の径級があるが、その価格を以前の事業と比較したときにだいたい上がっていると報告がある。これは森林組合が受託を受けたもの。自伐で持ってくるというものは少し違う。価格が上がっている資料は、次の機会に示したい。

●森林課 市川

- ・大規模開発の件は、以前の森づくり委員会において、太陽光発電の関連で話題に出し、協議した。手続きの流れを説明すると、H29 年 6 月に申請がされて県から許可が出た。1 年くらい前から砂防法等の開発にかかる許認可関係をクリアして、最終的に林地開発の許可を得た。50 ha 等の大きな案件は県庁で審議がなされている。井ノ口町の 20 ha 以上の開発に関しては、市と土地の所有者と開発事業者で災害等発生時の対応に関しての協定を結んだ。

●森林課 鈴木（春）

- ・森林学校については、新・森づくり構想の中で普及事業の柱として位置付けており、今後続けていくためにどのような体制を作るかが今後の課題になる。新・構想シンポジウムの参加者アンケートの中で、「豊田市の森づくりの取り組みは知らなかった」という声が多く、新たな参加者の獲得など、まだまだ普及していく必要がある。

●山本委員

- ・メガソーラは全国的にも問題になっている。恵那市では、市民の反対もあり、一度開発が中断した。豊田市も開発するなら、市民が納得する形で進めてほしい。

●岡本会長

- ・豊田市も開発条例があるのでは？

●森林課長 古澤

- ・今議論しているのは、開発手続き条例の施行前の案件。今では、事前に地元住民への説明会を求められている。
- 片桐委員
  - ・土地の開発行為ということで、いろんな法令が関わっていく。窓口を一つにして、それぞれの審査基準で審査している。すべての法令をクリアして許可している。
- 蔵治委員
  - ・他の地域と関わっているが、前からソーラー開発に反対しているような地域もある。そのような地域では、申請前に住民の許可がなければ申請の受付もしない地域もある。豊田市では今までメガソーラは問題になっていなかった。今回の件を踏まえて、豊田市が変わっていくかもしれない。
- 永井委員
  - ・山本委員に賛成。市の条例や県の基準に達しているから問題ないということが腑に落ちない。森づくり委員会は森を守ろうという委員会。今回の議題よりも、メガソーラへの対応や、森林学校についての議題の方が大切なのでは？
- 森林課 鈴木（春）
  - ・開発案件は、私的所有権を保護する現行の法体系では限界があり、規制について踏み込みにくいところもある。ただし、その中でも新・森づくり構想では森林保全ルールの方針を打ち出している。今の法律の枠内で、できる限りのことはやっていくために、森林保全のガイドラインを作成している最中である。
- 森林課長 古澤
  - ・手続き条例の前のことなので、後から規制をかけられない。今では、開発手続き条例があるので、制限はかかっている。
- 蔵治委員
  - ・県の審議会で林地開発等の案件を審議している。森づくり委員会でも、市内で発生した伐採届の規模を超えるものについて報告を受ける仕組みになってもいい。情報共有ができていないから森づくり委員会の意義があいまいになっている。
- 片桐委員
  - ・来年度の予算を含めて森林課の骨組み等変わることはないか？
- 森林課長 古澤
  - ・毎年、新年度初めの森づくり委員会で説明するが、予算がまだ決まっていない。予算要求レベルでは製材工場関係が終わり、全体的には落ちているが、間伐の予算は確保している。

## 5. 閉会

- 森林課長 古澤
  - ・最後に、今年度で退職される北岡より一言挨拶をしていただく。
- 森林課 北岡
  - ～挨拶～
- 森林課長 古澤
  - ・今回参加していただけて深くお礼申し上げます。次回開催についてはまた改めて日程調整し

ていく。

- ・長丁場にわたり議論をいただき感謝申し上げます。本日はこれにて閉会とする。

以 上